

# インフラマネジメント研究部会



中川 均 (部会長)  
日本観光自動車道協会

## わがふるさとの安全・安心は サステナブルに担保されているだろうか？ 公共インフラの健全な維持管理をFM(AM)手法で!

### ●keywords

市民協働 官民連携 PFI/PPP AI活用 地方自治体の課題 インフラメンテ国民会議  
インフラマネジャー育成 公共施設ROE 想定外の災害予防

**サマリー** 2012年に発生した笹子トンネル天井版崩落事故以来、公共インフラ点検の重要性がクローズアップされたが、多くの地方自治体では技術者不足・予算不足などの理由からもはや点検が目的化され、結果の評価やその後に取られるべき処置に手が回らないという本音が聞こえる。私たちはこの分野にFM手法を活用した官民連携を基本とした民間活力の利用による問題解決手法の調査研究を行っている。

**活動内容** 各地方においてのシンポジウム開催。  
インフラマネジメント人材の育成を目的とした(初級教本)「インフラ点検のすゝめ」の出版。  
国土交通省「インフラメンテ国民会議」への参加により行政連携等を模索・展開。  
若手人材の育成を目的とする「高等専門学校生によるインフラマネジメントテクノロジーコンテスト2020」の開催。  
17校30チームによる活発な議論が展開されファシリティマネジメントフォーラムにて最優秀賞・国立高専機構徳山工業高等専門学校、優秀賞・同木更津工業高等専門学校の作品とメンバーを紹介し、彼らの自由な発想による議論をオンラインで配信することができた。

**成 果**

- 各地方でのシンポジウム開催。
- 「高等専門学校生によるインフラマネジメントテクノロジーコンテスト2020」では17校30チームが参加。
- ファシリティマネジメントフォーラム2021にて「インフラマネジメントテクノロジーコンテスト2020」最優秀賞・国立高専機構徳山工業高等専門学校、優秀賞・同木更津工業高等専門学校の作品とメンバーを紹介。

**メンバー**

部会長：中川 均 日本観光自動車道協会

副部会長：岩佐 宏一 アイセイ

部会員：盛田 彰宏・渡辺 隆 バスコ 猪爪 一良 オリエンタルコンサルタンツ 名古屋 淳・北澤 隆一 ウォールナット  
大石 健二 パシフィックコンサルタンツ 多和田 俊介 アイ・エス・エス 宮下 昌展 エムケイ興産 鈴木 智行 八千代エンジニアリング  
仲田 尚樹 久米電装 盛重 知也 西松建設 岩本 和也 間瀬コンサルタンツ 幸野 茂・鈴木 泉・渡邊 大介 ガイアート  
田村 裕美 ソーシャルテクニカ 佐々木 正博 エス・ティー・サービス 岡野 登美子 アイセイ 中村 保則 構造計画研究所  
足立 慎一郎 日本政策投資銀行 山本 大介 関電工 横田 慎一 行政経営支援機構 宮島 卓也 アジア航測

事務局：川村 正夫 JFMA

## はじめに(7年前と変わったか?)

「最後の警告 — 今すぐ本格的なメンテナンスに舵を切れ!」この警告は平成26年4月14日国交省社会資本整備審議会道路分科会から発せられた「道路の老朽化対策の本格実施」に関する提言の冒頭の文書である。

同様にこの分野における深刻な課題として提起されているのが、予算、体制、メンテナンス産業、国民の理解、となっている。まず予算については国、自治体ともに潤沢でないことはもとより周知のことだが、体制面でも人材不足という点も深刻な事態となっており、点検の質の低下が心配されている。また担い手である企業群が産業としては未成熟であり、国民からの理解が得られず職業的な立場や待遇が十分ではない。あれから7年経過し事態はどれぐらい好転したのだろうか? 「国破れて山河在り」ならばまだしも私たちは故郷の山河もなくしているのではないだろうか?

### 1. 研究部会の活動

#### (実務に依拠した人材育成)

インフラマネジメント研究部会ではこれまで、各地方においてのシンポジウム開催、インフラマネジメント人材の育成を目的とした(初級教本)「インフラ点検のすゝめ」の出版、さらに国交省「インフラメンテ国民会議」への参加により行政連携等を模索・展開してきた。

昨年は若手人材の育成を目的とする「高等専門学校生によるインフラマネジメントテクノロジーコンテスト2020」を開催し17校30チームによる活発な議論が展開されファシリティマネジメントフォーラムにて最優秀賞・国立高専機構徳山工業高等専門学校、優秀賞・同木更津工業高等専門学校の作品とメンバーを紹介し、彼らの自由な発想による議論をオンラインで配信することができた。

### 2. FMとインフラマネジメント

#### (ファシリティマネジメントとアセットマネジメント)

当部会が設立された前年、2015年に発刊された「インフラマネジメント最前線」日経BPの「座談会インフラマネジメントの確立に向けて」で筆者自身がFMとインフラマネジメントとの関連について述べている箇所が

あるので少し長いが引用させていただく。

「日本ファシリティマネジメント協会が設立された20年～30年前当時はマンションの修繕積立金不足が話題になった。その頃、「なぜマンションに長期修繕計画が必要なのか」「なぜ10年単位で外壁を塗り替えるのか」といった議論があった。ところがマンションが老朽化し、空きマンションが増え、さらに劣化が進む事態となった。そこで修繕積立金の仕組みができてマンション管理適正化法も制定された。マンション管理士の資格が定められ、マンション管理業の登録制度が作られ、マンション管理適正化推進センターもできた。今のマンション購入者で修繕積立金を運用して建物を保全することに疑問を持っている人は皆無だろう。まさに自分の財産を守るという意識だと思うが、インフラに対する考え方も全く同じだ。インフラ管理者も道路や橋を国から預かっているという発想ではなく、住民が区分所有者であり、そこから選ばれた管理組合の理事長が法律で定められた管理者だという意識を持ってほしい。さらに管理会社がコンサルタントや道路保全会社という実務者だと。そのようにギアを切り替えるきっかけが、インフラの民営化や民間への包括管理委託になるのではないか」

ちょうど7年前の認識ではあるが、現状もあまり変わらない状況である。まさに建物施設をファシリティ、土木インフラはアセットと用語に違いがあるものの考え方の基本は同じで、それらを管理・運営することを、前者はファシリティマネジメント、後者はアセットマネジメントと用語定義をしているに過ぎないと考えている。(少し乱暴ですが…)

### 3. 今後の課題

#### (インフラマネジメントは産業化できるか? モデルづくりの第一歩を!)

本年度はインフラマネジメントを産業化する切り口として、ファイナンスの側面からアプローチをする予定としている。まず各界からPFI,PPP,民間手法としてESCO等の専門家を招いて、具体的な事例での勉強会を実施し今後の政策提言に活かしていければ考えている。興味関心のある方の参加を期待している。

産業化の一丁目一番地は、ROE (A) Return On Equity





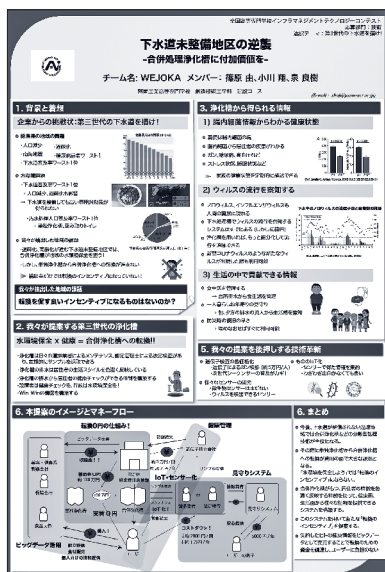
高等専門学校生による「第1回インフラマネジメントテクノロジーコンテスト2020」Web画面



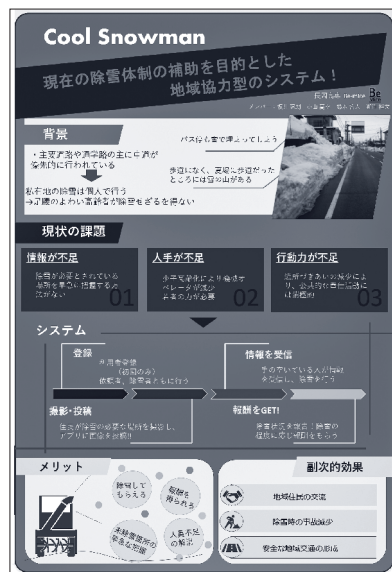
2



4



3



5



6